

地域の歴史と地理を活用した地域おこし

新潟県新潟市西区 赤塚郷土研究会



中原家住宅保存に向けた整備活動

赤塚郷土研究会（以降「当会」と称する）は、新潟市西区赤塚地域（以降「当地」と称する）を拠点として昭和56年3月に発足し、地域住民からの認知度が高い団体である。当会は、郷土の歴史・地理・動植物等の地域資源の発掘研究を進めてきた。

主な事業として、研究会・講演会の実施、会誌『越後赤塚』の発行、他団体との交流・連携等である。当地は、ラムサール条約登録湿地「佐潟」をはじめとした自然や、縄文後期から続き、江戸時代には旧北陸道（北国街道）の在郷町として栄えるなど歴史が豊かな地域である。

① 情報発信の取り組み

史跡・地理的なポイントの情報をグループ

マップに登録し、マップ閲覧時に視覚的な資源発信に取り組んでいる。例えば、史跡ポイントとして三句碑・潟端の道しるべ・義清塚（村上義清の供養塚）・ウナギ御殿、自然・農業ポイントとして論地池（ドンチ池）・気になる樹・赤塚揚水場旧分水工、砂丘ポイントとして見晴らしの丘・パラポリック砂丘等がある。

② 組織づくり

地域資源の再生・活用に向けた組織づくりも行っている。2008年、中原家住宅（明治天皇赤塚行在所）の保存に向け、当会有志による敷地内の雑木伐採作業を行った。翌年に「赤塚・中原邸保存会」を発足し、保存に





マップ展示



砂丘ウォーキング



小学生に砂丘を案内

向けた本格的な整備、一般市民を対象とした一般公開の実施を開始し今も続けている。公開時には、当会で作成した旧北陸道マップをはじめ、当地の歴史をまとめた資料の展示を行っている。

当会が長年積み上げた研究成果を、当地に訪れる人々に発信し広めるため、まち歩き団体の発足を進め「赤塚・佐潟歴史ガイド」を立ち上げた。

また、砂丘地の魅力発信を進めるため、新潟国際情報大学・他団体と共同で活動を行う「新潟砂丘遊々会」を発足し、構成団体の一

部として砂丘地を巡るコースの設定、案内する場所の整備やガイドブック発行などを進めた。その一環で休憩所として、当地を一望できる高台「見晴らしの丘」に東屋を設置した。新潟砂丘遊々会(当会を含む)によって「砂丘ウォーキング」を実施し、砂丘の解説、地元農家や漬物企業と連携しながら特産物・食の発信も行っている。

地域個人蔵の書画作品の調査とそれを活用した活動として、当地に残る書画を通じて歴史の魅力の再認識を深めることを目的に、「赤塚郷ゆかりの文人展」や「赤塚地域の魅力と

お宝展」といった展示会を実施している(当会は「赤塚郷ゆかりの文人展実行委員会」の主力団体である)。

③総合学習への協力

小中学校の総合学習への協力も行っている。赤塚地域の小中学校を中心に、西区・中央区の学校からの要請を受け、佐潟や砂丘などの歴史や魅力を伝えるため総合学習へ出向している。また、児童を連れて「見晴らしの丘」へ歩き、道中の地形や栽培されている野



魅力とお宝展



地域住民向け講座（赤塚中学校にて）

業、そこまでの過程などの案内を行っている。

④ 地域に残る史料を活かした学びの創出

当地に残る書画や史料を、子どもから地域住民の学びへつなげるため、赤塚中学校における「地域の作品展示会」を共同実施し、郷土の歴史発信を行っている。また、同校を利用して地域住民向けの講座も実施している。

⑤ 俳句イベントを企画

当地は俳句の歴史が深く、多くの句碑や奉納句額が残る。行政との連携として、これらの背景を活かした一般市民向けの俳句イベント「句会ライブ」を西区役所と連携し、当地に残る俳句作品を紹介した。また中学生向けにも実施した。

⑥ 成果

グーグルマップへポイントを登録したことで、当地の地域資源をマップ上で見ることができる。また、訪れる・調べる・地域を知るなどのきっかけとなり、子どもから大人まで簡易的な情報を得ることができ、地域内外から反響を得ている。

総合学習で地域の歴史や自然・地形などの

魅力を伝え続けたことで、地域への関心を持つ児童・生徒が増えた。普段足を運ぶ機会のない場所（見晴らしの丘）から見える景色に感動する児童は多く、故郷の景観の素晴らしさを知る機会となっている。

書画の展示会を通じ書画への興味関心を寄せる一方、なぜ当地にこれほどの物があるのか、当地の歴史の奥深さを再認識した地域住民が増えた。また、書画の史料的・美術的価値を高めると同時に、新たな地域おこしへの資源活用につながっている。

新潟市内でも当地は歴史豊かであること、様々な取り組みを通じて地域内外に発信を続けたことで、特にこの10年の間に新潟市民から認知を広めることができた。また徐々にはあるが、地元住民もこれらの活動に寛容な心を持って見守る情勢ができてきた。活動を実践する人たちは高齢者が多いものの、生き生きと余暇を楽しめ、世代間交流と活動へのやりがいを感じながら、地域貢献・生涯学習の充実感を持って、健康寿命を延ばすことにも寄与している。

今後は、より一層大学や企業・NPOなどとのネットワークを深め、世代間交流の促進、こうした地域資源を活かした「観光地域づくり」へとつなげ、地域コミュニティの創造に取り組んでいきたい。

（赤塚郷土研究会 事務局長 太田和宏）